

平成28年度 伊那市立春富中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
理想をめざし、たくましく実践する人になろう ○豊かな心とたくましいからだを育てよう。 ○他人の立場になって考えよう。 ○やる気をもって粘り強く取り組もう。 ○自分の考えをもち、進んで表現しよう。 ○良い習慣を身につけ、その場に応じた行動をしよう。	1. 基礎基本の定着・学力の向上をめざす。 2. 豊かな表現力を持つ生徒の育成をめざす。 3. 意欲をもって自ら学び、行動ができる生徒をめざす。
	今年度の重点目標
	(1) 豊かに自己表現できる生徒の育成 (2) 凡事を徹底できる生徒の育成 (3) 認め合い、高め合える生徒の育成

総合評価		
○H28年度、学校目標、重点目標が適切であると答えた保護者は98%、取り組み状況がよい95%と目標、取り組みとも適切であると考える。 ○生徒や保護者が学校へ行くことを楽しんでいる割合が、H26年度は生徒87%・保護者91%、H27年度生徒90%・保護者92%、H28年度生徒92%・保護者92%と高い結果が出ており、生徒や保護者にとって学校は楽しい所と捉えられていることから、概ね達成することができた。 ○基礎基本の定着・学力の向上については、教科や分野等によっては多少ばらつきも見られるが、NRT学力検査、PDCAサイクル学力検査結果は、ほぼ県平均と比較してほぼ同等であると考えられる。生徒の自己評価でも、H26年度～H28年度89%と比較的高い評価となっている。一方、保護者の中には、学力の定着に不安をもっている方も27%おり、課題もある。家庭学習では、学習時間が1時間未満の生徒は、H27年度40%、H28年度39%と十分な家庭学習がなされていない状況も見られる。学習内容の確実な定着のために、授業の改編もとより、家庭学習の一層の充実が必要である。 ○豊かな表現力を持つ生徒の育成については、自己評価では、自ら自己を表現しようとした生徒がH26年度38%、H27年度35%、H28年度35%と低い傾向が続いており、自分を積極的に表現していくことに課題を感じている生徒が多い。今後も本校の大きな課題として取り組んでいく必要がある。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 発表場面・話し合いの場面作りの工夫等による授業改善に取り組んできた。全体の前で自らの考えを進んで発表することに抵抗を感じている生徒がまだいる。	A a	○小グループや学級などでの話し合い活動を様々な教育活動において設定する。 ○問題解決学習を取り入れた生徒主体の授業を仕組む。
(2) 挨拶・清掃・時間を中心に学校・生徒会をあげて取り組み、成果を上げることができている。特に、清掃、挨拶については向上がみられた	B a	○学級・学年・生徒会としての取り組みを一層活性化させる。 ○評価、道徳教育等を大事にして生徒の意識を高め、心を育てる指導を強化する。
(3) 道徳教育、人権教育の充実を図りながら、開かれた集団作りを進めている。互いに批評し合いながら高めしていくという力を一層高めしていく必要がある。	A a	○学級、生徒会等での良きリーダーの育成を図り、自治力を育てる。 ○相談体制を一層充実させ、いじめ等の問題行動の早期発見・早期対応に心掛ける。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程	教育	○「わかる」「楽しい」達成感・成就感もてる教育課程の展開	○個々の生徒の「つける力」「伸ばす力」を明らかにし、計画的に教育課程を実践することができたか。
	課程	○特色ある教育課程の展開	○生徒や学級・学校、地域の特徴を生かした教育活動の展開ができたか。(教科、道特、特別活動、総合的な学習、生徒会等)
教育指導	学習指導	○基礎基本の定着を目指した、「わかる」授業への取り組み	○基礎基本の定着を図るとともに、「わかるようになった」「できるようになった」という実感がもてるような授業ができたか。
	指導	○相手に伝わる表現力の育成	○自分の考えをまとめ、表現できるようにするために、授業改善に努め、話し合い活動や伝え合う場面を積極的に授業に取り入れたか。
活動	部活動	○心身の健全な発達を図る部活動の実施	○生徒の発達段階に応じた適正な練習内容・練習時間での活動を実施し、体力の向上や技能の向上が図れたか。
	活動	○協調性・社会性を醸成する部活動の実施	○集団の一員としてルールを守り、お互い協力し合いながら目標に向かって努力することができたか。
生徒指導	生徒指導	○問題行動・不登校への対応	○問題行動・不登校への予防的対応に心がけ、安心できる学校・学級づくりに努力したか。 ○生徒理解に基づいた個々の生徒への支援ができたか。
	指導	○凡事の徹底	○挨拶、清掃、時間等、日常生活での当たり前のにきちんと取り組めたか。
安全	安全	○安全意識の向上	○安全教育を通して、安全な通学への心構えや、学校生活に於ける安全意識を向上させることができたか。
	安全	○安全の確保	○管理場所の安全点検を定期的(通学路の安全点検を含む)に実施し、事故防止に努めている。
学校運営	地域との連携	○学年学級通信、学校だよりを通しての生徒理解	○学級通信や学校だよりによって、積極的に学級や学校での生徒の活動の様子を知らせたか。
	地域との連携	○地区との交流	○地区へ出向いたり、地区の人を招いたりして、交流活動を積極的に実施したか。
	地域との連携	○地域の人材の活用	○地域の人材を積極的に活用した授業・学習支援を実施したか。
	研修	○校内研修の実施	○授業改善のために、公開授業や教科内に於ける教科研修を実施したか。
研修	○校外研修への参加	○自己の授業力の向上や生徒指導力の向上のために、校外研修に参加したか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○生徒の学力の傾向の把握に努め、指導内容の見直しを図り計画的に教育課程を実践することができた。更に全教育活動において実践していく必要がある。	A a	○標準学力検査、県PDCAサイクル事業調査結果や校内定期テストの結果の分析を丁寧に行い、本校生徒の学力の実態を把握し、指導内容・方法を見直ししていく。
○地域と共に育つ生徒をめざし、地域奉仕活動、キャリア教育、食育の推進、お年寄りの招待、暑中見舞いや年賀状の送付等を行い、地域と連携しながら、地域の中で育ち、生きる自分を意識する教育活動に取り組んできた。保護者の方の90%の方が地域との連携が取れていると評価している。	A b	○総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して、自分たちから進んで地域と連携しようとする姿勢を深めていく。 ○「自分たちの学校の活動、取り組みの特色はこれだ」と生徒が自信をもっていえる活動を引き続き検討し実践していきたい。
○職員に授業の3観点「ねらい、めりはり、見届け」の意識化を図り、さらに、全9教科および道徳、総合的な学習の時間において指導主事派遣を依頼し授業研究会を行うなどしながら、授業改善に向けて取り組んだ。 ○生徒が学習で「わかった」「できた」という実感がもてたかについては、H26年度89%、H27年度89%H、28年度では89%、と高い評価であり、達成できたと捉えるが、学習内容の確実な定着という面ではまた課題も残る。	A b	○授業の3観点を大事にし、毎時間の学習課題を明確にするとともに、学習活動に対する自己評価、相互評価を大事にしていく。 ○全教科で家庭学習のあり方について見直し、学習内容の確実な定着を図る。 ○全教科で指導主事等の指導者を招いての授業研究会や一人一公開などを引き続き実施し、職員の授業力の一層の向上を図る。
○一時間の授業の中で、話し合う場面や、伝え合う場面を意図的に取り入れたことで、小グループの中で、自分の考えをまとめて表現できるよう生徒が増えてきているが、学級全体など多人数の前で発言することに抵抗を感じている生徒も多い(H28年度65%)。	B b	○授業の中に小グループを中心とした話し合い活動を積極的に位置づけしていく。 ○話し合い活動、問題解決学習を取り入れた授業を仕組む。 ○ひとり一人が認められる温かな開かれた学級づくりに努める。
○生徒、保護者とも部活動に対する関心が大変高く、部活動を通しての心身の健全な発育、生徒・生活指導面での向上に期待が大きい。アンケートの結果部活動一懸念事項と答えた生徒は97%おり意欲的な活動が行われていると捉えられる。また、生徒達の活動への意欲が、結果としても表れ、大変素晴らしい成果をあげることができた。	A a	○全部活で保護者会を立ち上げ、部活動運営委員会を組織して、生徒や保護者の考えも大切にしながら、部活動の適正なあり方について検討していく。社会体育については、地域総合がスポーツクラブへの加入を進め連携していく。 ○生徒の安全・健康面を考慮し、ノー部活デー等の実施を今後も工夫していく。 ○夏場の熱中症対策やけがの防止等、生徒の安全対策の研修を行い徹底する。
○部活動を行っている生徒の保護者の96%が、生徒が部活動に対して意欲的に取り組んでいると考えている。部活動に対する、保護者、地域の期待は大変大きい。	A a	○引き続き部活動に対する保護者参観を実施したり、定期的に部活動運営委員会を開催して意見交換をしたりして、部活動に対する理解をより一層図り、協力をお願いしていく。
○生徒指導にかかわり適切に指導が行われと答えた保護者は93%であり、学校の指導に対して高い評価をいただくことができた。 ○相談体制を整えるとともに、学校で起こったことは早期に家庭に伝えるとともに、家庭の願いを大切にしながら、家庭との連携を図ってきた。悩み事を相談できる先生が少ないと答えている生徒がH26年度には33%であったが、H27年度27%、H28年度25%と若干の改善が見られてきた。引き続き職員が生徒との親和的な関係づくりに積極的に取り組み、生徒理解に努めていくとともに、生徒との相談体制の充実を図ってきたい。	A b	○職員と生徒とのより良い関係づくりを進めるとともに、生徒が気軽に相談できる体制の整備を一層進める。また、様々な課題を抱えた生徒に対する支援チームを組織し、担任を支えるとともに、早期に対応できる支援体制の充実を図る。 ○いじめに対して、アンケート調査や日頃の観察、相談等により早期に発見し対応するとともに、生徒会の「春富中学校人権宣言」を柱に、絶対にいじめをしない、させない、許さないという雰囲気をもっと高めていく。 ○Q・Uなどの諸検査等も活用し、生徒の人間関係等の適切な指導に努める。
○「凡事徹底」を重点に全校で取り組み、意識が高まってきている。挨拶は、校内だけでなく地域でもよい評価をいただき、身に付けてきていると思われるが個人差もある。清掃については無言への意識が向上し、実践できる生徒が多くなってきている。	A a	○生徒会の活動や「信州あいさつの日」の活動などを通して、生徒の主体的な取り組みを目指していく。 ○よりよい清掃のあり方、無言清掃の意義など、つねに清掃のあり方を見直ししていく。
○年間3回の交通安全教室や、ほぼ毎月行われる現地交通安全指導、全家庭による街頭安全指導を通して安全意識が高まり、安全通学に努めることができた。 ○特に自転車通学については、地域に戻ると、やや意識が甘くなってしまう傾向も見られ、さらに継続的に安全指導の徹底を図って行く必要がある。	A b	○交通安全指導、特に自転車通学の安全については、本校の抱えている大きな教育課題である。継続して安全意識の定着に向けて指導を続けていく。 ○教師の危機管理意識の向上をさらに目指す。職員朝会や職員会議、臨時職員連絡会、日報等により、常に危機管理意識を高めていく。
○毎月1回の管理場所安全点検を実施した。また、毎日朝夕の校内巡視を行い、施設の不備等の早期発見、改修に努めた。	A a	○地域との連携を深め、地域と共に生徒への安全指導を行っていくという共通理解のもと、生徒の交通事故防止に取り組む。また、施設・管理についても引き続き安全管理の徹底を図り、生徒が安心して安全な生活ができる環境を整える。
○学級通信や学校便りを通して、学校や生徒の様子を伝えたことにより、H26年度～H28年度まで94%と概ね達成できたと思われる。 ○学校便りを地域回覧し、地域の方々にも学校の様子を知っていただくことができた。	A b	○毎週末に発行される学年便りや、毎月発行され地域回覧もされる学校便り、または学級だより、全体としては学校の様子が家庭へ伝わっていると思われるが、まだ学級差が見られる。更に努力をしていく。 ○学校HPのさらなる充実にも努める。
○年間2回の地区奉仕活動では地域に出て、地域の方と一緒に活動したり、学習ボランティア、読み聞かせボランティア、キャリア教育、食育の推進、放課後学習支援等で地域から出でたいて支援していただいたりと、地域との連携を大切にしながら活動を進めた。 ○地域にお住まいのお年寄りの皆さんへ、暑中見舞い、年賀状を出し、文化祭にはお年寄りを招待して交流会を行った。	A a	○地域との交流、連携は、本校の特色ある教育活動の一つの柱ともなっているため、今後も地域との交流活動や地域の人材の積極的な活用を継続していく。 ○地区奉仕活動など、地域に積極的に出ていけるような活動をさらに工夫していく。
○学習ボランティア、読み聞かせボランティア、キャリア教育等で積極的に授業・学習支援をいただき、成果が上がってきている。	A a	○信州型コミュニティスクールの組織が確立され歩み始めた。まだまだ模索状態である。さらなる発展に努めていく。
○年間11回の授業研究会(うち、2回は全校研究授業)、2回の学区内小学校への公開授業、そして一人一公開授業を目標に、積極的に授業公開を実施し、授業改善につなげるよう努めた。	B a	○授業改善に向けて、引き続き全教科で教育事務所指導主事の派遣をお願いして授業研究会を実施していく。また、全教員が、それぞれのテーマをもって、1年に1回は授業を公開し、授業力の向上を図る。
○各種研修会や授業研究会に積極的に参加し、自己の授業力の向上に努めた。また、校区内4小学校へ出向いての出前授業を3回行い、教科における小中の連携の重要性を理解することができた。	A a	○様々な教育課題に対しての研修参加を促し、また、研修内容を全職員で共有できるようにしていく。 ○春富中学校区小中学校合同研修会で小中の連携や地域独自の課題について引き続き検討する。